

チェルノブイリ事故放射能汚染医療支援

東ヨーロッパ

ベラルーシ

チェルノブイリ被災地域の医療支援活動

概要：チェルノブイリ原発事故は、被曝から 30 年以上経過した今もベラルーシの人々の健康に悪影響を及ぼし、特に食習慣による二次被曝で体の発達が未熟な青少年への健康被害が強く懸念されている。

1995 年にゴメリ州のゴメリ小児専門病院から依頼を受けた物資や医療器具の支援を開始して以来、被災者のための支援活動を継続している。

2006 年より現地青年ボランティア団体「アルテラ」に被災者支援プログラムの活動費を支援。

2007 年に放射能防護研究所「ベルラド」を訪問。この研究所は、定期的に汚染地域付近の子供達の体内放射能を測定し、その数値を下げる効果が期待できる健康食品「ビタペクト」を開発。体内に蓄積された放射能が危険なレベルを超える子供達に投与する活動を地道に実施。病気を未然に防ぐために一人でも多くの子供達を助けたいという趣旨に共感し、2008 年に WFP 日本による「ビタペクト」配布支援活動を開始。



医療物資寄贈

2010 年に「ベルラド」と協力して、汚染地域に近い小中一貫校にて、「健康指導センター」を設置。採取した食品中の放射能量を子供達に調べさせて、放射能の脅威に気づかせ、どう防いでいくのか健康への意識を啓蒙している。

進展状況	2017 年	2018 年
ゴメリ州立小児専門病院への医療物資支援	<ul style="list-style-type: none"> 心電図の記録デバイス用ケーブル 6 チャンネル心電計 口を拡張するエキスパンダー 楕円生検鉗子 熱表示板 カテーテル固定用の石膏フィルム包帯 	<ul style="list-style-type: none"> 手術器具を洗浄するための特殊溶剤レジンバック E-315 3 個 多目的コンピュータコンプレックス電極ヘルメット 3 種 リハビリ用マッサージチェア 1 台
「ビタペクト 3」投与支援金	40 人分を寄付	11 人分を寄付
健康指導センター	ベルラドからゴメリ州ルチトシ地域のギムナジウムを推薦され視察し、活動の継続費用を支援した。	ゴメリ州チェチェルスク第 2 学校を視察。

ウクライナ

ウクライナ・チェルノブイリ被曝児のための医療支援

概要：1999 年 11 月より、キエフ市を中心として、多くの小児病院、孤児院などに医療器具、医薬品、治療費などの支援をしてきた。2010 年よりチェルノブイリ原発事故の被害者団体「チェルノブイリ・ソユーズ」の要請による支援を行っている。



(2017) エリザベータ・シュルツちゃん (10 歳) 被曝 2 世
 母親は、チェルノブイリで生まれ育ち、1 歳の時に被曝。
 病名：先天性奇形脊椎ヘルニア。仙骨脊髄麻痺。骨盤機能不全。神経因性膀胱（膀胱の神経機能障害）
 リザちゃん一人でトイレに行けず、カテーテルとおむつを使用。2011 年に膀胱の移植手術をしたが、うまく神経が繋がらず、再手術が必要。現在、成長期のため手術ができず、2018 年 4 月超音波検査費用を支援し、様子を見ることとなった。



(2018) ジャスティナ・ザモイシカちゃん (12 歳) 被曝 2 世
 母親の妊娠中に、先天性水頭症とわかり、帝王切開で生まれたが、歩行機能に関係する脳の部分が冒されていたため、8 歳まで歩くことができなかった。
 その後、手術とリハビリによって、つかまりながら歩けるようになった。これから集中リハビリをすることによって、ひとりで歩けるようになる可能性があるため、リハビリ治療の費用を支援。